

## 会員近況



鳥取大学  
教育学部技術教室 元木 重雄

私の所属する教室は、中学校技術科教員の養成機関であって、機械工学や電気工学を主とする6科目をカバーするものです。研究分野は切削関係、教育面での担当科目は機械工学および金属材料なので、直接にORを用いることはありません。その他、工学部で品質管理（選択科目）を担当していますが、わずか15週間で広い間口をこなすのでORに触れる余裕がありません。しかし、どちらの学部の学生に対しても、統計的なものの考え方および数量の把握の上に立つ直観力の養成を心がけるようにしています。

日進ソフトウェア(株)  
商品企画室 西森 克巳

現在、マイコンを利用したシステムの商品化を担当しております。仕事とは直接関係のないような場所で、客先の要求が聞けたり、システムの設計をたのまれたりして、人間関係がいかに重要であるかを、痛感させられております。

最近経験したことは、ある中小企業2社のため情報検索の小型化システムを考え、A・B2種類のシステムを設計しました。そのおり、Aシステムでは客先との打合せを再三行ない、その都度客先の要求が大きくなり、システムが過大になり、プログラム設計の段階でまた削りとり、少なからず客先の信用をなくした結果となりました。それに反しまして、Bシステムでは仕様検討の時に、客先の目的をよくのみこみ、逆に製作者側で業務理解のもと、指導を行なう形をとりましたので、その後のプログラム設計でもトラブルなく作業を進めることができました。

両者の開発経過をふり返りますと、システム設計作業のとき、ターゲットを明確にしぼり、それにもとづいた的確な判断のもと、客先を指導すべきであること、その次には、客先のシステムを理解するため、再三の勉強会を行なったとき、逆にその虜になり、自らが作成システムを自己満足のため、過大にしてしまったと、この2点

の誤りをおかしたと考えております。

電子計算機の知識が普及したといっても、中小企業の業界ではまだ過大評価の傾向が多いように見受けられます。その方々と種々システムの開発設計等の相談をするときは、OR的手法を頭に入れておいて、少しずつでも、それを実践しながら進めるべきであると痛感しております。

(株)三和銀行 事務指導部 小西 希良

現在、事務量統計およびそれにもとづく営業店指導等の仕事にたずさわっています。近年、銀行にも品質管理の考え方が導入され、QCサークル活動が盛んになってきました。QCサークル活動を通じて、統計的な考え方が広まり、従来の個人的な勘による現状の認識・判断から、データにもとづく科学的な分析へと変化しつつあります。その中で、勘からデータへの切替えに走るあまり統計手法そのものがもつ固有の前提に触れることなく、結果的に手法に振り回される例も見うけられます。私も仕事柄、データをとりあつかう機会が多く、同様のミスをお犯している可能性もあり、「計量なき論理は空虚であり、論理なき計量は盲目である」との言葉をかみしめている毎日です。

海上自衛隊  
第4支隊整備隊 福楽 勲

航空機を整備する部門において品質管理業務に従事しております。航空機整備における品質管理が製造段階の品質管理と異なるところは、整備という人間の行為そのものも品質管理の対象とするところにあります。整備する人とそれをチェックする人とが別々におり、チェックする人は遠慮なく誤り等を指摘することが望ましいのですが、このようなやり方は、欧米人に比べて日本人にはなじみにくくその完全実施はなかなか困難であります。

航空機の故障に関するデータを統計処理することは、もちろん品質管理の重要な作業ではありますが、標準化された整備行為があってはじめて統計処理も意味をもつわけです。整備行為について標準化されたものを順守してゆくことが品質管理の第一歩であり、また、品質管理とは一部の担当者のみで実施するものではなく作業に従事する総員で実施するものであることを痛感しております。

入社以来はや11年、今までは主に生産管理を主体としたEDP化にとりくんできました。生産管理システムはオーダーエントリーを中心とし、OMRシート発行による差立板管理、ラベル発行による現品管理等を主とし、KRシステムと総称しています。生産サイドはそれなりにすっきりしたものになったものと思いますが、EDPサイドは重装備となつてしまい反省しています。

現在は主に社内外を中心としたデータ解析にとりくんでいます。時系列分析から始め、今は計量経済モデル分析に熱中しております。製品が完成品でなくOEMであるため最終消費動向が把握せず、風が吹けば桶屋がもうかる式のモデルができません。データサイドからの分析に頼らざるを得ません。膨大なデータに追われネをあげております。データ解析の前にデータの整理の重要性をつくづく感じております。データ解析手法をひとつとおりマスターしたく、「情報化時代の経営分析」(東大出版会)を読み始めております。

大学で交通計画を専攻し、現在は交通計画、都市計画に関する仕事をしています。ORとの関わりは、大学で講義を受けたことに始まり、以後学会誌を中心に手法、応用等を読んでおりますが、実際の作業では、その性格と業務としての制約条件もあり、簡単な統計解析およびそれをもとにしたモデル化、あるいは既存モデルへの適用が主になっています。年々この種の業務の中では、種々の社会的問題がいつその関わりをもってきているものも多く、これらの問題に関係する要因をとり入れた現況分析、将来予測等の必要性が生じています。そのためには、よりOR的な手法の適用が有効な手段になり得ると考えられ、当然ですが、手法の十分な理解をもとにしたインプットデータの作成、アウトプットの読みとりができるか否かが適用に対する課題であると考えています。しかし、現在これを業務を通してすすめていくことはむづかしく、せいぜい作業の初めに、OR的思考方を作業手順、項目選定、項目の重要度判定等に働かせている程度です。この分野での研究および手法の適用が、数多く発表されることを期待しています。

この数年、季節商品の生産計画と工場規模の最適化を検討してきました。需要が複雑および季節変動をしても、生産能力を所与とする生産と販売に関していくつかの基本法則の存在することが明らかになりました。これらの法則を用いると、最適な新設規模や増設規模が確定しますし、好ましい生産体制(残業、2直、3直など)を決定することも可能となります。少々、過大広告になりましたが、現実の季節商品の生産やその工場規模について、筆者が意識していない問題も多いと思われます。諸賢のご批判、ご教示を得て、実際問題の解決のための研究をすすめていきたいと思っていますのでよろしくお願いたします。なお、この研究を進めるにあたりまして、慶応義塾大学工学部管理工学科千住鎮雄教授より懇切なご指導を賜りました。ここに記して、深甚の謝意を表します。

[他の所属学会] 日本経営工学会

昭和42年頃より実戦的ORの活用を始め、工程管理用のCPM・PERT、LP、シミュレーション、多変量解析等を利用したケーススタディを行なってきました。

現在は、全国支店、油証所のオンラインシステムの開発プロジェクトに属し、石油製品の出入荷・移動・在庫等の物流関係データを主体に処理し、次のような効果を主たる狙いとしてシステム開発を行なっています。

- ①油証所における伝票作成、日報作成の機械化による油証所業務の省力化
- ②配車ガイドの機械化により、合理的配車を促進して輸送費の節減をはかる。
- ③物流データの迅速な収集・処理により、的確な販売活動の展開をサポートする。
- ④全国油証所の出入荷・在庫状況を早期かつ正確に把握することにより、製油所における適正な生産と各地への適正な製品配分を行ない、消費者に対する石油製品安定供給の一助とする。

なお、機器の設置、オンライン化の実施時期は56年度上期中を予定しており、したがって、56年度下期から、この全国コンピュータ・ネットワークが本格的な稼働を開始します。

新明和工業  
航空機製作所開発部 永井 順正

人間、40にして感わずと言われますが、低成長時代の到来と時を同じくして、40代を迎えた私には、ただ感うことばかりの毎日というのが正直なところです。

本来、内なる心の秩序と外界の自然の秩序とが同一であるとする日本の発想の原点からすれば、今の私の状態は、まったく不徳の至すところと言えます。

そもそも、私がOR学会にお世話になった動機は、システムの考え方や問題の解き方について興味を覚えたことに始まります。この点では、企業活動の中にあ

て、直接にも間接にも、それなりの効果をもたらしてくださったことに感謝している次第です。

しかし、今“四十(始終)感う”現実をみると、浅学非才の身を省みず、日本的発想の上に、分析と総合の繰返しであり、最も西欧的なOR思考形式をもち込もうなど、おそれたことを試みて、みごとその狭間に落ち込んでもがいている感があります。

でも、この問題は、日本のORワーカーにとって宿命的課題とも言えるものですので、この面では、ORのためのORが必要となる局面と言えるのかも知れません。しかもそのORでは、日本固有の心学的なアプローチから解答への手がかりが得られるのではないかと思ったりしています。

### 会合記録

	( )内は人数
表彰委員会	2月2日(月)(4)
IAOR委員会	2月6日(金)(2)
編集委員会	2月6日(金)(9)
研究普及委員会	2月10日(火)(10)
OR文献賞選考小委員会	2月18日(水)(5)
研究部会主査会議	2月25日(水)(12)
表彰委員会	2月26日(木)(6)

### 入退会

●入会 (56年度より) (正会員)
湯口 進一 平塚市役所
和手 信泰 日本情報サービス㈱
渡辺 弘之 日本ユニパック㈱
(学生会員)
今井 浩 東京大学
内田 雅寛 防衛大学校
北澤 博之 青山学院大学
鈴木 裕基 青山学院大学
林 陽一 東京理科大学
土方 慎也 青山学院大学

安田 一彦 神戸大学  
山本 雅基 東京理科大学  
(賛助会員)

石田衡器製作所

#### 訃報

村上 敏氏 (東京電機大学助教) 昭和55年11月25日、心臓発作のため逝去されました。享年41才。謹しんでお悔み申し上げます。

羽鳥 司氏 (防衛大学校教授) 昭和55年10月12日、脳溢血のため逝去されました。享年58才。謹しんでお悔み申し上げます。

**編集後記** 先日OR学会春季研究発表会は盛会のうちに開催された。見学会は神戸港見学および前評判高いポートピア'81開催に先だつてのポートアイランド見学ということで受付け後間もなく締切りになるほどの人気でした。旧くからのOR学会員でもある小笠原兵庫副知事の案内によるポートピア見学は大変実り多いものでした。ポートピア入場者予測は当初の計画を大幅に上ま

わる1300万人とか。しかも大幅に増える可能性も大とか。これだけの入場者をさばききれなかろうか頭のいたい大問題とのこと。会場内外いたるところ待ち行列ができること必死。ORの材料にはことかかないとの副知事の弁。▶桜前線の動きは今年は遅れ気味ようですが、最近の春らしい陽気にその遅れをとりもどしつつあるようです。(M)

## オペレーションズ・リサーチ

昭和56年4月号 第26巻 (新シリーズ第6巻) 4号 通巻244号  
代表者 松田 武彦  
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113  
編集人 高橋 磐郎  
発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円 (郵送料含) 年間予約購読料 9600円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社 (571-2548)、日経弘報社 (583-2241) へ